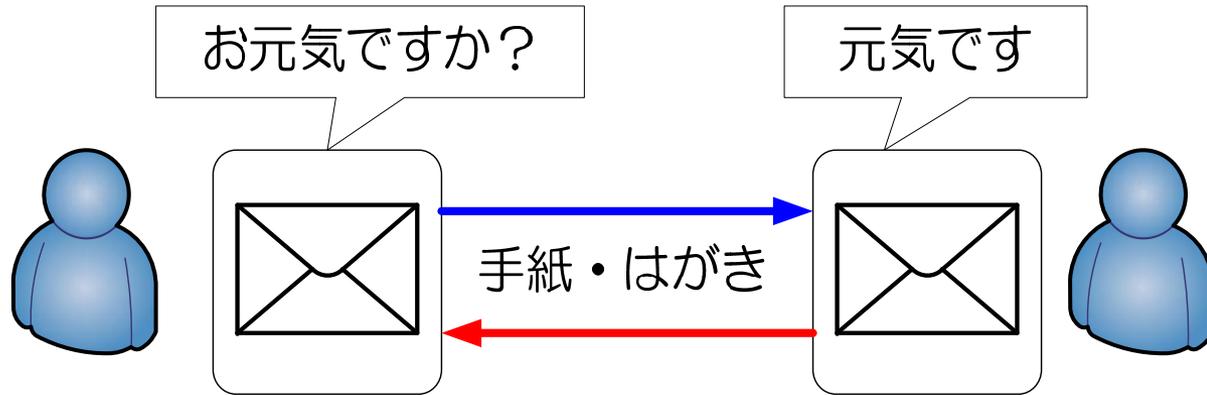


コミュニティ・ブロードバンドから ブロードバンド・コミュニティへ

鹿児島大学 学術情報基盤センター
升屋 正人

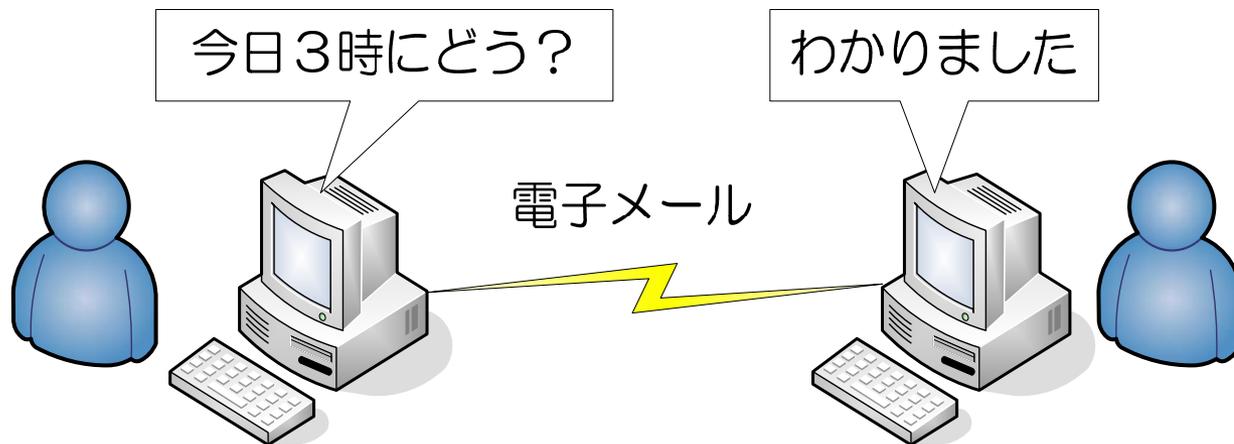
インターネットで早くなる

インターネット前



何日か
かかる

インターネット後

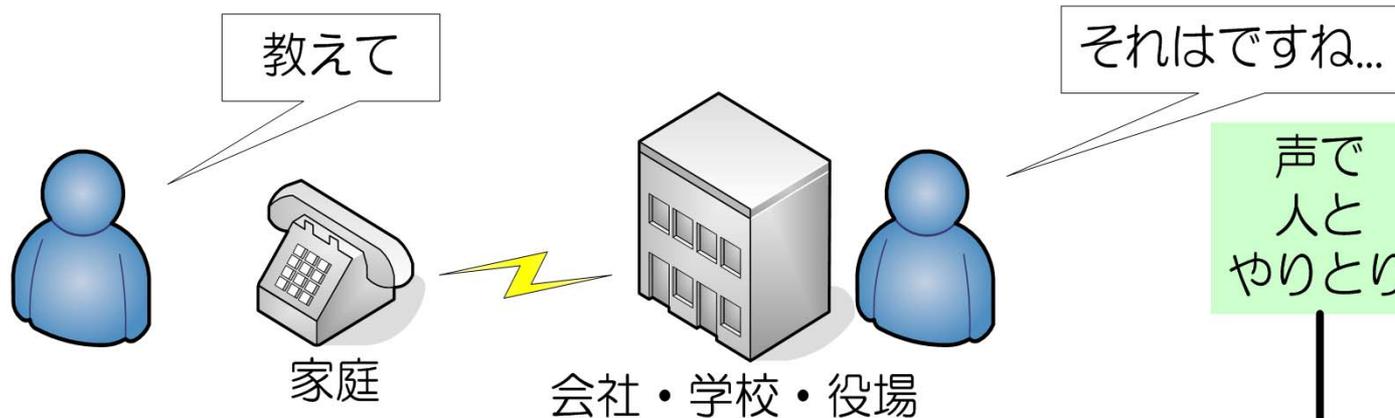


早くなった

すぐ
とどく

インターネットで便利になる

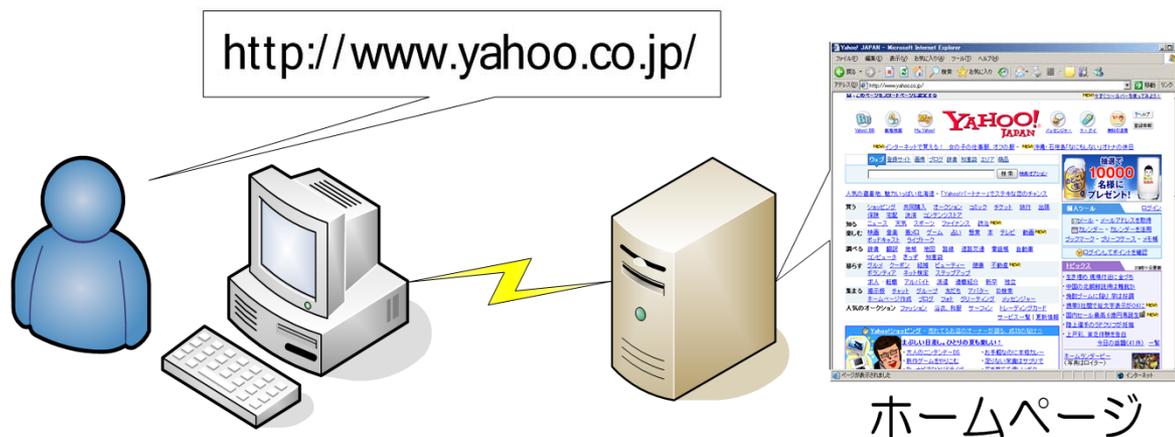
インターネット前



声で
人と
やりとり

便利になった

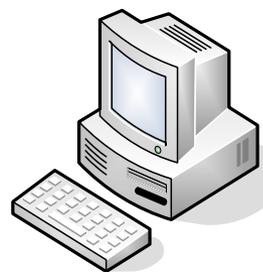
インターネット後



文字で
機械と
いつでも
やりとり
けんさく
もOK

つまり、

いろいろなやりとりが
早く・便利に



パソコン

でも



ケータイ

でもOK

それが「インターネット」

さらに、

文字だけでなく、
画像や映像をやりとりできる
のが、

ブロードバンド

(高速インターネット回線)

ケータイインターネットとは違って大画面、何でも
つながる (テレビ・電話・ゲーム・携帯電話も)

でも、条件不利地域では

- ブロードバンドの整備が難しい
 - とされている (?)
- 整備には莫大な費用がかかる
 - と考えられている (?)
- このため、実際にブロードバンドは整備されていなかった
- 「コミュニティ・ブロードバンド」で解決！
を目指して研究開発→SCOPE採択研究事業

ブロードバンド整備が困難な理由

- 光ファイバを敷設して、機械を置くだけ
 - 技術的には何の困難もない
- 難しいのは、その「費用」
 - 海底ケーブルはキロあたり 2～3 千万円
 - 億単位の経費が必要
 - 赤字確実なので民間事業者はやらない
 - 条件不利地域を抱える市町村にとって 3 分の 1 補助では厳しい
 - しかも、3 分の 1 の補助も獲得は容易でない
 - 自設の場合維持費用が財政を圧迫する場合も

すぐに使えるブロードバンドもある

- 専用線
 - デジタルアクセス1500
 - 月額～50万円
 - 導入費用数十万円
- 衛星インターネット
 - JSAT SPACE IP
 - 月額10万円・20万円→現在は3,500円～
 - 導入費用100万円程度→現在は30万円～
- まだまだ高い
 - 都市部では導入費用数万円，月額数千円
- でも，数千万～数億円はかからない

そうだ！

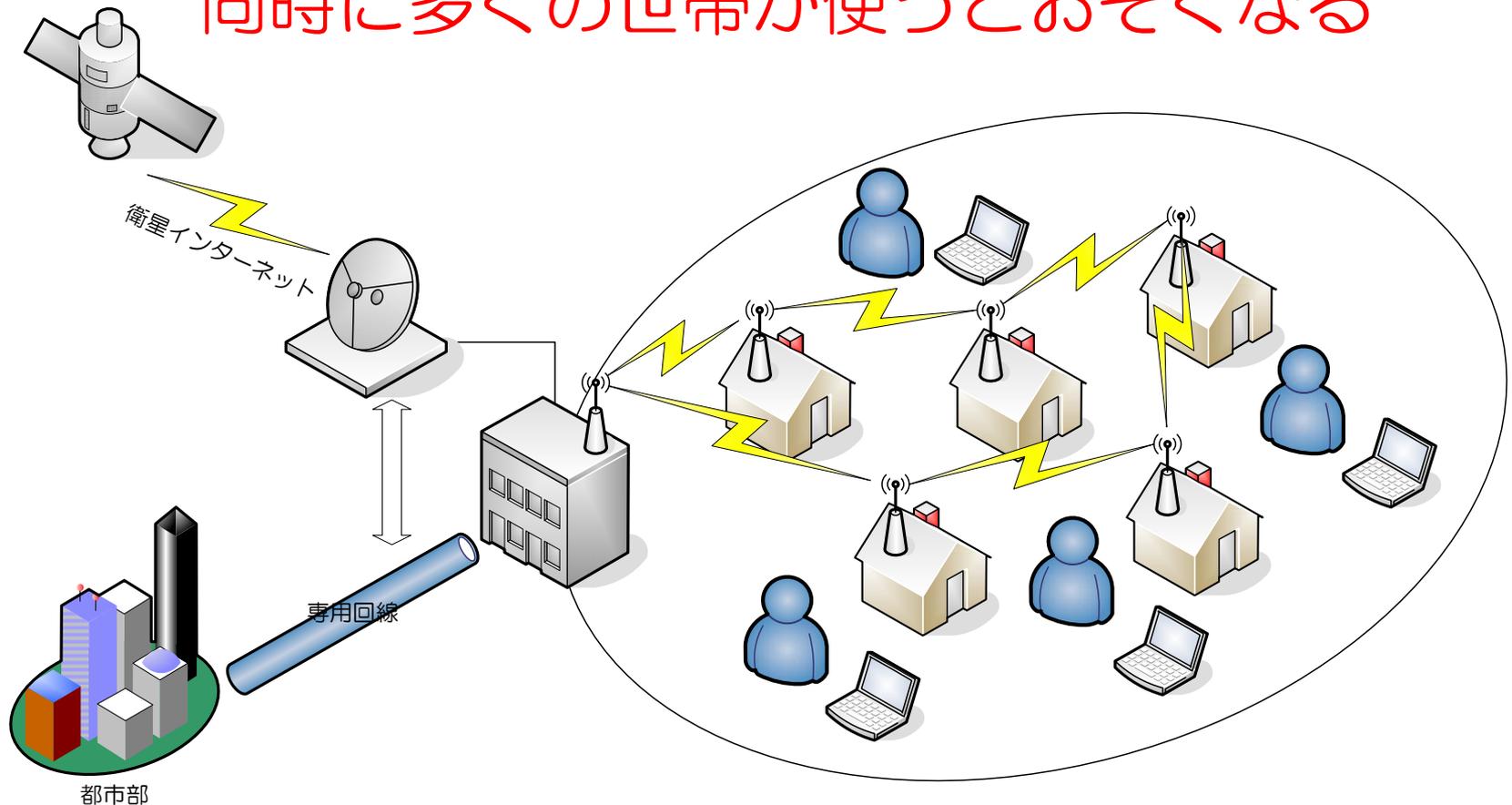
みんなで共有して
一世帯あたりを安くする

それが

コミュニティ・
ブロードバンド

コミュニティ・ブロードバンドの概要

各世帯をLANで結んでブロードバンドを共有
参加世帯が多いほど安くなる
同時に多くの世帯が使うとおそくなる



住民主導のブロードバンド整備戦略

- 民間事業者も自治体もやらないのでまず住民がやる。その上で自治体、通信事業者に対して
- 使うからよこせ
ではなく
- 使っているから支援・強化しろ
と言う
- 「利活用」ありきの戦略
→実際には政治主導・「整備」ありきで進行

コミュニティ・ブロードバンド研究実施地域

- 十島村→公設公営事業22年12月開始
 - －口之島・平島・諏訪之瀬島・小宝島・宝島
 - －平島では無線LANで屋外を含め全世帯カバー
- 三島村→公設公営事業23年度開始予定
 - －硫黄島・竹島
 - －竹島は国内最長区間の海上無線LAN利用
- 南さつま市
 - －秋目地区（局から遠くADSL接続不可）
 - －現在も研究継続中

整備されたら次は、

- 地域の絆をブロードバンドで結ぶ
ブロードバンド・コミュニティ
 - 地域内がブロードバンドで結ばれる
 - 相互扶助（結い）
 - 地域外ともブロードバンドで結ばれる
- ブロードバンドはあくまで手段
 - 利点：いつでも、どこでも、誰とでも
→ユビキタス
 - 対面コミュニケーションを併用
↑こちらがより大事

ブロードバンド・コミュニティに必要なのは

- 「ひと」
 - 世代ごとの地域のITリーダー（的なる人）
 - ペースが違ふので、子どもは子ども、お年寄りはお年寄りに聞くのがわかりやすい
 - コミュニティの核になる人
 - 既存の自治会長や自治体職員でもOK
- コミュニティの継続
 - てげてげていい
 - ゆるいつながりでも長続きさせるのが肝要